

中学校教育(モデル校)での社会的孤立・ 孤独の予防教育(事業)の実施について

筑波大学等では、社会技術研究開発センター(RISTEX)が実施する「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」の採択を受けて、「社会的孤立の生成プロセス解明と介入法開発:健康な『個立』を目指して」の研究事業を進めています。

本市は、この研究事業についてフィールド提供の立場から参画し、この度、この研究事業の一連として市内にある中学校の生徒へ「ひとりぼっちでも前向きな考え方ができ、いざとなったら助けを求められる」ことを目標とする教育プログラム(特別授業)を実施します。

(モデル校2校のうち1校は7月に終了)



- 目的: 社会的に孤立していても心身の不調につながるような孤独感を強めないための認知と、ゆるやかな(ほどよい距離感の)対人関係の作り方、ひとりであることの良さやひとりを楽しめる知恵、適切な相談先や地域社会資源の情報に関するスキルの獲得を目指し、社会的孤立・孤独の一次予防につなげる。
- 実施校及び場所: 市立岩間中学校(対象:2学年)(笠間市下郷4997-1)
- 講師: 筑波大学医学医療系 災害・地域精神医学 たちかわ ひろかず 太刀川 弘和先生 ほか
- 日時および教育内容 <<本研究で作成した動画の視聴やグループワークなどを行います>>
 - ・第1回:9月12日(火)「社会的孤立・孤独が生じるメカニズム、ひとりぼっちであることへの考え方の違いなど社会的孤立・孤独の社会の多様な捉え方を学ぶ。」
 - ・第2回:9月19日(火)「ゆるやかな対人関係の重要性、そのための作り方を学ぶ。特に思春期は友達関係で危機が起こりやすく、不登校などにつながりやすいため、人とのほどよい距離感と自立のありようを学ぶ。」
 - ・第3回:9月26日(火)「ひとりでも楽しい過ごし方、ひとりで困ったときの相談、SOSの出し方を学び『ひとりぼっち』に対するスティグマ低減と『いきる力』の強化を目指す。」

※各教育の時間割については、別紙をご確認ください

この件に関するお問い合わせ

- ・研究事業等について: 筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学 担当: 矢口 e-mail: dcpsych@md.tsukuba.ac.jp
- ・対象校等について: 笠間市教育委員会 教育部 学務課 担当: 稲田・今瀬 e-mail: gakumu@city.kasama.lg.jp
笠間市役所 保健福祉部 社会福祉課 担当: 瀬谷・高松 e-mail: fukushi@city.kasama.lg.jp
(笠間市教育委員会・笠間市役所共通) 電話番号: 0296-77-1101 (代表)

別紙

<時間割について> 実施校：岩間中学校

	9月12日(火)	9月19日(火)	9月26日(火)
3時間目 (10:25～11:15)	1組	1組	2組・3組
4時間目 (11:25～12:15)	2組・3組	2組・3組	1組

<研究内容について>

社会的孤立の生成プロセス解明と介入法開発： 健康な「個立」を目指して達成目標と実施内容

個人が互いに孤立していても、社会生活危機や健康危機に至らず、個々が創造的な生活を送ることができる健康な「個立」社会の創生

①社会的孤立・孤独メカニズム理解と、社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出

- 一般住民やひきこもり、精神障害者らを対象とした大規模社会調査
- 一般住民らを対象とした縦断調査
 - 社会的孤立者の支援者らを対象としたプロトタイプ・アプローチ

- ひきこもり・精神疾患患者を対象とした面接調査



②人や集団が社会的孤立・孤独に陥るリスクの可視化と評価手法（指標等）の開発

- 潜在連合テストを用いた大規模なオンライン実験による社会的孤立者の認知的特徴の解明
- 社会的孤立を助長するスティグマの潜在・顕在的測定指標（スティグマ尺度）の開発
- スマートフォンやタブレットで実施できるアプリケーションの開発



③社会的孤立・孤独を予防する仕組みづくりとその実践及び効果検証

- スモールスタート期間に得られた知見に基づく予防介入法の開発
- 地域住民に対する研修の実施や予防介入法の実践
- 開発した尺度等を活用した効果検証と社会への実装

